略」など。 経て2017年より現職。 著書に 滕 Ш

地 一般社団法人 域社会総合研究所所 持続可能な 長

替え時期に当たる本年度 地域等直接支払制度の切り 課題となっている。中山間 することが、多くの地域で 地域農業の担い手を確保 就農見通しが重大な局

めずに登り始める人はいな する際に、山の標高を確か こせないものだ。山登りを なかなか具体的な行動は起 ないうちは、人間も地域も か、具体的な目標が決まら もに進めても展望は開けな が渡らない。だが、やみく ないと次世代に「バトン」 家の高齢化状況を考える 面を迎えている。現在の農 い。どこまで頑張ればよい 「待ったなし」で始め

地

域

の農業就

を

測

グ え る地域の で見

農 能 を

支援に役立ていただく予定 ル地区を中心に地域の就農 同システムを活用し、モデ きるシステムである。本年 農の目標を具体的に算出で 香川県と新潟県で、 基づき分析してみた。 0年・2015年データに 旧村単位)を対象に201 組んでいる40地域(昭和の 山間地域直接支払いに取り

の予測と今後必要な新規就

用されている地域人口版を 開発し数多くの自治体で活 を開発した。研究所で独自 の就農人口予測プログラム

就農支援に役立てる

農業就業者人口 -高齢化率

76.9

180

90

80

70

60

50

40

30

20 10

143

2019年度、

基に、地域の農業就業人口

ある。 均規模は1898人、5年 の男女5歳刻み人口だけで 5年前の住民および就農者 まず、地域人口全体の平

このまま現状で推移する から38%に上昇している。 65歳以上の高齢化率は33% 今後30年で地域人口全 たる。

間の人口減少率は7・7%、 地域人口の1・1%分に当 増加させればよい。これは、 を各3組(合計9組、21人) 夫婦・60代前半夫婦の定住 めには、1地域平均で20代 は48%にまで上昇する。長 前半男女・30代前半子連れ 期的に人口を安定させるた にかけての新規就農が増え ており、地域によっては30

ネジメント)。島根県中山間地域研究センター等を **島根県生まれ。一橋大学経済学部卒業。博士** 「田園回帰1%戦

40~64歳の就農増加

のまま現状で推移すると、

歳前後の就農も目立つ。こ

り、5年間の人口減少率は 平均187人となってお ない。実は、 %台でほとんど上昇してい いる。一方、 20%と大幅なものになって いて見ると、1地域当たり 次に、農業就業人口につ 40歳から64歳 高齢化率は71 今後30年で農業就業人口は

35歳から60歳と比較)。特 に、50代後半から60代前半 者が増えている(5年前の して男女とも4割以上就農 までの世代で見ると、平均 ースで(1年に合計1・5 をそれぞれ2年に1組のペ 男女・60代前半男女の就農 組、3人)増加させればよ せるためには、1地域平均 53%減少してしまう。 の1・5%分に当たる。 い。これは、農業就業人口 就業人口を長期的に安定さ で20代前半男女・30代前半

体は47%減少し、高齢化率

・年に3世帯就農を

347人)を事例に、実際 い地域(2015年地域 紹介する。 のシミュレーション結果を 口1764人、農業就業者 対象地域の平均傾向に近

で5~6代を中心に新規就 ていく (図1) 的には農業就業者は半減し 降の大量引退のため、 農者はあるものの、70代以 同地域では、最近5年間 0

り各0・95組実現していく えてくるのだ。 ば、安定的な営農体制が見 約3世帯の就農を実現すれ を現在レベルで持続できる と、長期的な農業就業者数 3代前半男女・6代前半男 女の就農増加を、1年当た (図2)。1年当たり合計 そこで、20代前半男女・

い。地で活用していただきた 持続可能な農村づくりに各 すべて把握できる。ぜひ、 将来の増減率・年齢構成が 男女5歳刻みで現在および 開発したシステムでは、

香川県では、 山 現行推移の場合の農業就業者数と高齢化率予測 図 1 人 450 408 400 347 350 323 300 250 200 150 100

0 20年 25年 30年 35年 40年 45年 図2 就農者増加時のシミュレーション % 00 450 408 ■農業就業者人□ 90 400 365 365 高齢化率 352 347 80 350 316 312 70 300 60 250 50 200 40 150 30 100 20 50 10 0 15年 20年 25年 35年 40年 45年 2010年 30年

69.1

274

237

50 2010年 15年

必要なデータは、現在と